

2024年2月12日(月祝)講演会①午前の部
主催:(一般社団法人)障がい児成長支援協会
後援:大村市教育委員会 青少年児童療育支援協会株式会社

『どうしてあの子たちはやらないのか？ どうしたらやるのか？』

○ゲームが止められない ○時間が守れない ○宿題に取り組めない
○片付けが出来ない ○同級生の仲間がいない

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 代表理事・協会長
中部学院大学非常勤講師 山内康彦(学校心理士SV・ガイダンスカウンセラー)

特別支援が必要な子ども達の増加

■データ①

小中学校の通常学級における発達障害の子ども

全国 8.8% (前回 6.5%)

大幅に増加！ コロナ2019流行が原因！

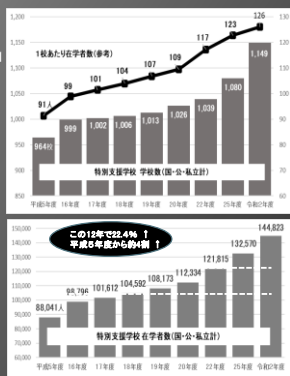
■データ②

小中学校の通常学級における発達障害の子ども

小学校 7.7人に1人 中学校 2.0人に1人

※更に、“保健室登校”などの予備軍も多数有

図1



● 小学校・中学校の特別支援学級数と児童・生徒数

特別支援教室の数

平成18年度 21,619教室
令和2年度 69,478教室
約3.2倍

在籍児童・生徒の人数

平成18年度 69,250人
令和2年度 300,540人
約4.3倍

出典:文部科学省「特別支援教育資料(令和2年度)」P.15、P.16より引用作成
https://www.mext.go.jp/joho_menshou/kokuhokumaterials/1406465_00009.htm

出典:文部科学省「特別支援教育資料(令和2年度)」P.43より引用作成
https://www.mext.go.jp/joho_menshou/kokuhokumaterials/1406465_00009.htm

こんな通知表見たことない！！

これが、講師の山内の小学校2年生の通知表です。

項目	国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭科	体育	保健	生活	その他
1	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう
2	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう
3	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう

授業中の様子や、学習態度、生活態度、家庭での様子など、手書きで記入されています。

なぜ私が二次障害を起こさなかったか？

×苦手な事や課題を克服するマイナスを埋める教育では、所詮頑張っても「0」
○得意なことや好きなことを伸ばしていくことで、マイナス面も高まっていく考え方が大切

(例) さかな君・トムクルーズ・金澤翔子さん

○ぼく(山内)にはたくさんの特技がある。
(サッカー・手品・ギター・スキー・船舶免許)
※自信→自己肯定感となっていく
※大きな花1つのタイプや小さな花の花束タイプ

こんなぼくを受け入れてくれた 親や周りの大人に感謝！！

「やりなさい」ではなく「一緒にやろう！」

○プラレールの片付けができない時に・・・

○魚釣りを誘ってくれたお父さん

○手品を買って教えてくれたお父さん

○母はおやつで友だちをもてなし、いつも笑顔

こんなぼくを受け入れてくれた 担任や校長先生に感謝！！

- 僕を肩車して鬼ごっこしてくれた坪井先生
- 大好きな理科の実験をしてくれた木村先生
- 小学校から高校まで、ずっとギターを教えてくれた川瀬先生

何よりも、こんなぼくを「受け入れようとしてくれる気持ち」が態度で分かって嬉しかった。

「困った子」は「困っている子」

「困った子だ！」と嘆いているのは、大人の勝手な視点

☆実は一番困っているのは

その子ども本人

子どもの困り感に寄り添うこと

「心理検査の活用」と「応用行動分析」

本来判定に使うためのものではない

☆K-ABC・K-ABC 2

☆田中ビネー

☆WISCⅢ・WISCⅣ

☆新版K式

☆なぜ顔を上げないか→



個の知的特性等を把握し、その高低やバラツキからその子に合った支援を考える材料にするもの

最新の研究結果から

自閉症の子どもたちは相手の気持ちを読み取ることができる？

「この大人は、自分を受け入れる気持ちがあるかどうか？」を試してくる

◎受け入れてくれそう→大すき

▲受け入れる気持ちがない→大嫌い

※本当の専門性とは

「どんな大変な子も受け入れる姿勢！」

叱られる子は負のスパイラルに陥っている

できない→叱られる→自信がなくなる
→やらない→叱られる→ふてくされる
→怒鳴られる→逃げる（反抗する）
→もっともっと怒鳴られる

◆自己肯定感をなくしていく

「俺はどうせバカだから・・・」

「どうせ 私には できないし・・・」

「はじめてから やらない方がいいや」

ほめることでよいスパイラルに変えていく

できる→ほめられる→自信がつく→やる
→またほめられる→もっともっとやる
→どんどんできる→更にほめられる
→より高い目標に向かって取り組む

◆自己肯定感を高めていく

「ぼくは、計算は得意なんだ。」

「調理が好きでコックさんになりたい」

「勉強は苦手だけどやさしい子です」

「通常の教育」と「特別支援教育」の違いを一言で表すと……

《通常の教育》

できないことへのチャレンジ教育

※今までのできた自信があるからできる。

《特別支援教育》

できることからの出発教育

※やらせでもよい。まずは、できた経験を沢山積むことで自信となり自己肯定感が高まる



子どもたちにやらせる方法(1)

行動を起こすときの条件から考える

1. 楽しい おもしろい やってみたい
2. できる わかる 上達する
3. ほめられる 表彰される
4. こわくない 安全

(例) 宿題をやらない理由と
すすんで取り組ませるためには？

子どもたちにやらせる方法(2)

取り組ませ方の工夫

×親や先生が決める

- ・僕が決めたんじゃない

◎本人に選択させる

○選択するとは本人が決めたこと

○メリットとデメリットを事前に説明

×本人に考えさせる

- ・そうなるとは思わなかった
- ・わかっていたらやらなかった

もぐら叩き教育はダメ パートⅠ
幹を見て、本質、原則で指導方法を考える

□厳しくしかること・徹底すること

- ・大人だったら警察に捕まること
- ・人に迷惑をかけること

■ゆるすこと・ある程度見逃すこと

- ・警察に捕まらない 迷惑をかけない
- ・本人だけの問題

もぐら叩き教育はダメ パートⅡ
幹を見て、本質、原則で指導方法を考える

□絶対にやらせること

- ・大人になったらやること

■ゆるすこと・ある程度見逃すこと

- ・大人になってやらないこと

保護者や指導者からのよくある
お悩みについて具体例を通して
お答えします

①「片付けが苦手な子」に対する支援方法

なぜ片付けることができないか？

×複数の指示が混在している

1 集める 2 分ける 3 整頓

この3つを分けて順に指導する

具体的には

まず「集める」ことから始める

②「時間が守れない子」に対する支援方法

なぜ時間を守ることができないか？

×気持ちの切り替えが苦手

口の指示ではなく音楽を活用

園や学校も同じことをしている

具体的には

気持ちを切り替える音楽を流す

③「友だちがいない子」に対する支援方法

なぜ友だちがいないのか？

×受け入れる子がない

受け入れてくれる大人を創る

本人より幼い周りが悪い！

具体的には

まず、大人の友だちを増やす

④「ゲームを止めない子」に対する支援方法

なぜゲームを止められないか？

×事前の約束を決めていない

自分が決めたことは守らせる

甘やかせてはいけない

具体的には

「ゲーム貯金」という指導法

ご清聴ありがとうございました



オススメ ほめる育て方や進路についてわかる本！

①特別支援教育って何？

②特別支援が必要な子どもの進路の話

③特別支援が必要な子どもの

「就労」「進学」「進路」相談室→※新刊

WAVE出版→書店・アマゾン等で購入可能！

